

第1章 公的年金の意義と役割

1 少子高齢化の進展

我が国の平均寿命は世界一の水準に達し、人口構造の高齢化が進む一方、生まれてくる子どもの数は減少傾向にあり、少子化が進んでいます。また、平成 17 年国勢調査による同年 10 月 1 日現在の人口は 1 億 2,776 万人で、総務

省の「平成 16 年 10 月 1 日現在推計人口」(平成 17 (2005) 年 3 月公表) と比べて 2 万人の減少となっており、我が国が「人口減少社会」を迎えつつあることが明らかになってきています。

〈図表 1-1〉 65 歳以上人口割合等の推移と見通し

(単位:年)

	65 歳以上人口/全人口	65 歳以上人口/20 歳以上 65 歳未満人口
昭和 35 (1960) 年	5.7%	10.6% (9.5 人で 1 人)
昭和 45 (1970) 年	7.1%	11.7% (8.5 人で 1 人)
昭和 55 (1980) 年	9.1%	15.1% (6.6 人で 1 人)
平成 2 (1990) 年	12.0%	19.6% (5.1 人で 1 人)
平成 7 (1995) 年	14.5%	23.2% (4.3 人で 1 人)
平成 12 (2000) 年	17.3%	27.9% (3.6 人で 1 人)
平成 17 (2005) 年	20.2%	33.1% (3.0 人で 1 人)
平成 42 (2030) 年	31.8%	58.2% (1.7 人で 1 人)
平成 67 (2055) 年	40.5%	85.0% (1.2 人で 1 人)

(資料) 総務省統計局「国勢調査」、「人口推計」

国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口 (平成 18 年 12 月推計)」